

令和6年度三重大学技術発表会を終えて

本学における技術発表会は今回で 32 回目となりました。工学部など技術職員ら有志によりスタートしましたが、2008 年より主催を三重大学に移し、工学部のみならず、全学の教室系技術職員や事務職員が一体となって実施しています。最初は小さな活動であったものが、着実に実績を重ね、32 回目を迎えたことは関係の皆さんの努力の賜です。

三重大学では、40 名程の教室系技術職員が工学部、生物資源学部、医学部、教育学部、教育推進・学生支援機構、研究基盤推進機構及び情報基盤センターに在籍し、個々に専門的な技術をもって教育・研究支援に取り組んでいます。専門分野が異なる技術者が、お互いの考えや意見を出し合い、議論を交わすことが自らの知識や技術の向上につながり、組織の活性化にも結びつきます。

今年度開催する技術発表会においても学外から寄稿・報告があり、活発な技術交流や情報交換が行われました。

国立大学法人においては、運営費交付金の減額や人件費削減など引き続き厳しい教育研究の環境ではありますが、それを乗り越えた本学技術職員の積極的な自己研修への取組みは、人材を育て、活かし、新たな独創性や創造性を生み出す活動に結びつくものと心強く思っております。

大学において教育・研究に携わる専門技術をもった技術職員は、教員・事務職員同様に無くてはならない存在であります。本発表会が、大学における技術職員の重要性を学内外に発信する場となることで、技術職員の益々の活躍を期待しております。

2025 年 3 月

三重大学長 伊 藤 正 明